ひかり

No. 89
2013年（平成25年）
３月１日
発　行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
片桐浄映

道理理屈を聞くじゃない
味にとられて
味を聞くことナムアミダブツ
妙好人　浅原才市翁

第18回 日高組真宗法座

阿弥陀経に聞く

突然お母さんを失ったその子は「お母さん」という母を呼ぶ名にお母さんとお会いしているのです。お母さんという一言とお母さんと語り合っているのです。お母さんと呼ぶとき、不思議にも、お母さんを失った悲しさや淋しさを超える勇気が湧いてくるのです。お母さんという一言に万葉人が、言霊（ことだま）と呼んだ、人知を超える不思議な力が宿っているのでしょうか。

大切なのは、「お母さん」と子どもが繰り返しているところだ。お母さんという言葉に、お母さんにすべてを委ねて信じている子どもがあり、その子のために苦労しても、子を育てている母がある。母親は子どもが生まれてから、何度も「お母さんがね」と子どもに呼びかけている。

「お母さん」という言葉は単にものをあらわす言葉ではありません。その言葉には、母の愛情と母の働きが備わったものです。南無阿弥陀仏もそうなのです。

子は私たち凡夫で、母親は子どものためにひとり働きをしているアミダさまです。そのアミダさまが、私たちに「お母さんがね」と、お母さんが私たちを育てるために苦労と働きと願いをかけているのです。すべてが込められているのです。「お母さん」という言葉が、そのままお母さんなのです。

南無阿弥陀仏もそうなのです。仏さまの願いと苦労と慈悲と智慧が込められ、私たちに呼び声として、仏の願いを込められているのです。これが、南無阿弥陀仏のいわれです。

仏さまがお説きになる阿弥陀仏の名とこの経の名を、聞くものすべての人は、仏に護られて、この上ないさとりに向かって退くことのない位に至るのです。

（永原智行）

ありがとう　たった五文字の　大きな一言

「母の死を偲びて」

母が往生の素懐を遂げ、はや一周忌の法要を終えました。思えば突然のご往生でした。

晩年は足腰が弱くなり自分で身の回りの事もできない状態となり、車いすでの介護を受けながらも家族揃って食事をする毎日を送っていました。しかし、亡くなる数日前から、食事があまり進まなくなり、寺の法要の事もあって充分な介護が出来なくなるため、しばらく入院し点滴を受けることを医師からすすめられました。その後、病院に行きましたが、入院の手続きをする間も無く、帰らぬ状態になりました。

私は、「容態が急変した」との連絡を疑う思いで病院に駆けつけましたが、既に別れの言葉「ご苦労さんでした、有難う」の声が届かぬ状態に驚きと悲しさを味わいました。「どうして、何があったのか」と思いつつ、命のはかなさ、諸行無常のことわりを痛感させられたことでありました。

死別と言う、寂しさの内に愚痴を言いつつ介護した苦労も消え、支え合って生きていた自分に気づかされ、同時に、阿弥陀さまは何時でも、何処でも「安心せよ、まかせ救う、見捨てはしない」との呼び声をいただき、お念仏し「倶会一処」のお浄土を想うことでありました。

母はお寺で生まれ、お寺に嫁ぎ、お念仏のご縁をいただきながらの生涯でした。

そんな母の生涯を悲しみの内に思い起こしつつ、無常の悲しみは、お浄土でなければ逃れる由もなく、さとりの身とならねば、超えることはできないと聞かされます。

「幸せな生活をしながら人は死ぬ
食事をしていても人は死ぬ
長生きしていても人は死ぬ」
死は全てに科せられた試練である。

無常の命を生きている私達です。誰もが一度は聞いたことがある御文章（白骨章）に「後生の一大事を心にかけて・・」とあります。

「死後どうなるかの問題、お浄土に生まれさせていただくことを心に思い、お念仏の生活を送りましょう」とお勧め下さいます。

それは、目標を持って人生を送り、むなしく過ぎる人生でなく、往き先を定めて今を生きることの大切さをお教え下さったのが親鸞聖人でありました。

お念仏に生かされ、生きぬく仏恩報謝の日々を歩ませていただきます。

なんまんだぶつ、・・

（鈴木悟峰）

法悦クイズ

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想・ご意見等を明記の上、下記までお送りください。

〒649-1223
日高郡日高町小浦195
円行寺内　日高組事務所

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日
平成25年５月20日（必着）

※発表は次号

浄土真宗の本尊はどれでしょう？
次の１～３の中から一つ選んで番号を書いてください。

１．釈迦牟尼仏（しゃかむにぶつ）　２．観音菩薩（かんのんぼさつ）　３．阿弥陀仏（あみだぶつ）

88号の正解は、「２．生きている人のために、喜びの人生が送れるようにと」でした。
正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

由良町　浜上由美子　様
由良町　井上登未子　様
由良町　松下トメヨ　様
由良町　畑中　靖子　様
由良町　中野　定代　様
御坊市　塩田　廣一　様
由良町　畑中　宏之　様

門徒心得

呼び名「院主さん!」

私は職業の欄には『僧侶』と書きますが、世間からの呼び名の多いこと・・・「お坊さん」「住職さん」「おじゅっさん」「おっさん」「和尚さん」「院主さん」まだまだ「坊主」「○×△坊主」「先生」若いころには「若さん」というのもありました。そこに寺号「蓮専寺さん」や名前・愛称・法名読み「法明さん」まだまだありそうです。

住職とは「住持職」のことで寺院の維持・管理を司る代表者のことでここから略して「おじゅっさん」「おっさん」と呼ばれるようになったのでしょう。「院主さん」も同じ意味ですが九州方面は「ご院家さん」。ここから「ごいんさん」「ごえんさん」「坊主」も意味は同じです。「お坊さん」ですね。親しい仲でのボウズ呼ばわりもありますが侮辱・馬鹿にする呼び方はどうでしょうか。職業で呼び合うときは「さん」付けしたいものです。

しかし浄土真宗で使わないのが「和尚さん」。和尚には師匠（人師）・先生の意味があります。私たちは使いません。

私自身いろいろな呼び名で呼ばれているのですが、ご門徒に呼ばれるには「院主さん！」が一番好きです。若い頃から日曜学校の子供から「院主さん！」とよばれています。その子供たちが大人になり、今その小さな子供たちがみんな「院主さん」と呼んでくれます。お爺ちゃん、お婆ちゃん、お父さん、お母さん、子供たち、きっと家族の中で「院主さん！」なんでしょう。そう思うとうれしいものです。先代の住職は「前住さん」がいいでしょう。

そういえばお寺にも女へんに家と書くお方がいらっしゃいます。住職の奥様は「坊守さん」と呼びます。先代の坊守さんは「前坊守さん」です。呼び名なんてどうでもいいと思います。しかし普段呼び合う名は円滑なコミュニケーション・信頼を得るものでもあります。

（岩崎法明）

近畿地区 仏教婦人会大会

日高組の副会長の役が回ってきたとかでその役を受けさせてもらっている関係上、この度近畿大会に参加させていただき意義ある一日を送らせてもらいました。

大会のテーマは「私たちの生き方・めざすもの」～親鸞聖人・恵信尼さまに今学ぶ～と掲げられていました。式場の装置はシンプルでいて且つ厳かであり、それに添えて音楽礼拝の歌声がその雰囲気を一層引き立たせていました。私達も心の中でご唱和させていただきました。

大会会長と委員長の挨拶、総裁様のお言葉も静かな中にも厳かで親しみを持って語られ開会式が終了しました。

記念講演は仏教研究家の都路恵子先生で誰にでもよく分かる魅力ある話し方でさわやかな親しみ易さが印象的でした。

アトラクションでは鷺森幼稚園園児の可愛いらしい演技と黒潮躍虎太鼓保存会の若い力が大会を盛り上げて下さいました。

プログラムが時間通りに進行されていくのをみながら、この大会の実行委員の方々の影の力の大切さを実感致しました。

私達ダーナの係の八人も開会前と休憩時間にダーナ募金のお願いに上がらせていただきました。大勢の方のご協力により高額の募金が集まり、人の心の温かさを感じさせられました。ありがとうございました。

（岩崎道代）

読者の声

※いつもありがたく拝読させて頂いております。
※毎回新聞を楽しんでいます。
※いつも有り難うございます。
※私共のお寺でも、先日報恩講法要をお勤めになられました。大阪の安方先生の法話をありがたく聞かせて頂きました。

お知らせ

Google 日高組ホームページ

日高組ホームページを開設しました。

日高組では、今年度より御同朋の社会をめざす運動の目標の一つでもあります広報の課題として、「世代を超えて愛読頂けるような創意工夫を」との思いから、組独自のホームページ運営を開始しました。
組報「ひかり」をはじめ、各教化団体のページや日高組の活動内容などを掲載します。
いつでもどこでもご活用いただき、定期的に閲覧いただければ幸いです。
ホームページ　URL　http://hidakaso.jimdo.com
または、グーグル・ヤフーなどの検索で［日高組ホームページ］と入力して検索できます。

日高組寺院めぐり

念興寺（由良町網代）

第十五世住職　上西　偕行

念興寺は、江戸時代初期、寛永年中（一六二四～一六四三）に僧、明導が西光寺を建立したと伝えられているが、大永年中（一五二一～一五二八）本願寺第九世実如上人より下付された六字の名号（南無阿弥陀佛）や方便法身尊形（阿弥陀如来画像）が残されている。また宝永二年（一七〇五）四月に本願寺より木仏本尊阿弥陀如来を下付された。当寺は、はじめ西光寺と称していた。元禄七年（一六九四）年に尾張（愛知県）の祐海という僧が当寺で寺務を執行する間に現在の念興寺と改称された。当時祐海が持参したと思われる寺号扁額華厳宗の僧鳳潭の書が保存されている。文化四年（一八〇七）に本堂を、昭和三十九年（一九六四）に山門が再建された。また焚鐘は昭和二十六年（一九五一）に再鋳され、平成十四年（二〇〇二）五月門信徒の浄財を結集して、念願の本堂、鐘楼など平成の大修復がなされた。念興寺の墓地の最上段近くに、慶応四年＝明治元年（一八六八）正月、鳥羽伏見の戦いで敗れ、傷ついて由良へ落ち延びて来た二人の墓がある。一基は会津砲兵隊士安部井留四郎の墓であり、もう一基は、前年の慶応三年十一月十七日、京都三条近江屋に公儀見廻組佐々木唯三郎ら七人が、坂本龍馬、中岡新太郎の二人を暗殺した時の見張り役をした土肥仲蔵の墓である。二人は鉄砲傷を受け逃げきれず念興寺において切腹したと伝えられている。

念興寺

親鸞聖人750回大遠忌法要が修行（上志賀　妙願寺）

晴天に恵まれた十一月四日、厳かなうちに賑々しく五十年に一度の親鸞聖人の大遠忌法要が営まれました。七十名の参拝者で満堂のなか「献灯・献華・献香」に始まった宗祖讃仰作法（音楽法要）に、日曜学校児童らも参加、組内住職方とともに「ナモアミダブツ…」とお念仏の声が堂内に響きわたりました。記念法話には、佐賀教区戸川一味師が登壇、親鸞聖人の比叡山での修行の様子やお念仏のいわれを聴聞しました。法要後のお楽しみ抽選会では、「ハズレー」の声に思わず大爆笑となるなどして盛り上がった素晴らしい一日となりました。

教専寺報恩講に釈徹宗師

11月10日（土）11日（日）に由良町教専寺の報恩講に講師として釈先生が来られました。教専寺の報恩講は四座ありますので、講師の先生はいつもじっくりと浄土真宗のおみのりをお伝えくださいます。

釈先生の法話は、身体、言葉、心を調えるといった仏教の深い知恵についての話などを含め、仏教全体の流れから始まりました。また、日本の仏教において、大きくその流れを変えた三人の念仏者、法然聖人・親鸞聖人・一遍上人を取り上げ三者に共通すること、及び、相違を詳しく説明いただきました。

学者としてのフィールドワーク等に基づく博識のもと、他宗及び世界の宗教にも触れながら、私達は仏に願われている身なのだという自覚を持つことが強く求められていると同時に、真宗念仏者であることの意義や有り難さに改めて気づかせていただいたことでした。

釈徹宗（しゃく　てっしゅう）

一九六一年大阪府池田市生まれ。浄土真宗本願寺派　如来寺第十九世住職

龍谷大学大学院博士課程、大阪府立大学大学院博士課程修了。学術博士。相愛大学人文学部教授。専攻は宗教思想・人間学。NPO法人リライフ代表として、認知症高齢者のためのグループホーム『むつみ庵』、ケアプランセンターも運営する。

『いきなりはじめる仏教生活』（バジリコ）『仏教ではこう考える』（学研新書）『いきなりはじめる浄土真宗・インターネット持仏堂1』（内田樹氏との共著、本願寺出版社）『おてらくご―落語の中の浄土真宗』（本願寺出版社）など著書多数。

（教専寺住職永原智行と龍谷大学で同級生）

日高組通信

☆行事報告

「真宗法座」開催八十名が聴聞しました

この法座は今年で十八回目を数え、日高組の重点事業の一つとして継続開催され、より深くみ教えを聴いていこうとする聞法の集いです。

今回は由良町阿戸・教専寺において、滋賀教区から中神章生師をお招きし、浄土真宗のご本典「教行信証」の解説とともに如来の生起本末についてユーモアを交えてお取り次ぎいただきました。

多数の聴聞ありがとうございました。

「総代会後期研修会」が開催されました

日高組総代会後期研修会が一月二六日（土）午後一時三十分から比井の長覚寺において開催され、組内総代ら五十五名が「蓮如上人に学ぶ」の講題により御坊組組長湯川逸紀師からスクリーンを使用した講義形式の研修を受けました。

総代会では、今まで蓮如上人について学ぶ機会がほとんどなく、今回の研修会を通して、紀州へのご足跡など、ご絵伝などの資料を見ながら上人のご生涯を深く学ぶことができました。

☆行事予定

日高組「定期組会」

三月三十日（土）日高町小浦、円行寺に於いて開催します。

組会に先がけ、寺族、門徒総代（責任役員）の二十四年度、物故者追悼法要を勤修します。

その後、平成二十四年度の事業報告、決算報告、次年度の事業、予算等について審議・承認をお願いします。

各寺院の組会議員のご出席をお願いいたします。